

狂歌百人一首

狂歌百人一首



911.19
Ky
247268



4

5



武庫川女子大学図書館	
昭和49年二月14日	911.19
247268	Ky

恒永

武庫川学
院蔵書印

花咲庵米守

のちのちいふこと
あふれこつたさ
おちこつたさ
いふこと

あふれこつたさ
おちこつたさ
いふこと



米守

あふれこつたさ
おちこつたさ
いふこと

あふれこつたさ
おちこつたさ
いふこと

あふれこつたさ
おちこつたさ
いふこと





あやめくち
貫九

五箇の
ね
うこくは



橋立

吹くる風の

あはれ

枯尾玄

知る
てふ

郡
領
の
系

長喜

志のたよる人あきまゝと

うしろな 燐子の松の

三條の亭

全

乙未年及未の矢立まゝうゝて
 社日記よりうゝるにその



老にほくそ
やうのいふと
とのあつて
こそまづ

千春

千村
うさおありな
さるさる昔に
おさるに
さるの奴と
さるさる
さる

おれねの
うつくしき
思ふあつち
うつくし
思ふあつち

仙ノ
唐丸



斃人毒

繁人多妻

あつて
あつて
あつて
あつて
あつて

あゝゝゝ 在
自中々 龜丸
仇名の 老
ちぢぢぢ

あゝよしの老うるゝもの
うのゝゝきくぬらん
こそあやゝと



上毛原市 花元
あつきのまへにやうきやく
玉夏のすけのうきやく
ふさふさのうきやく

千村
新田の陣さあてて
玉夏のうきやく
ふさふさのうきやく

上毛寄 千本

石ころのうきやく
うきやくのうきやく
すけのうきやく
玉夏のうきやく



千村

千本

花元

日光 鳳鳴
乳わらわのうきやく
玉夏のうきやく
あまのうきやく

あつきの
玉夏のうきやく
あまのうきやく
すけのうきやく



鳳鳴

峯近
 けしきあるおの
 老あを
 神さめて
 けしきあり
 夢を
 希あを
 直ち

万守
 けしきあり
 あを
 旅あを
 行旅あり
 ゐちあを
 ちのあ



万守

峯近

一馬

けしきあり
 きしき
 やしき
 ゐしき
 夢を
 直ち

けしきあり
 けしきあり
 けしきあり
 けしきあり
 けしきあり



一馬

守川捨魚

花廻雲月乃水
番耶位及葉定
馬勞旅所芳野
於海去と

くろく 内お
すく 車凡
その 音

岳亭定世

あゝ 経とるさうさうと我
風とるさうさうと海とる
あゝ 経とるさうさうと



面師

筆者

文々舎

あゝ 経とるさうさうと我
風とるさうさうと海とる
あゝ 経とるさうさうと



撰者

あふあふ

やまのふとく

在

也

李方子



一 四三

甜さこそと胡戸てうめをむかへんかゝるを至る所のまじり西め

上毛宮崎

千本

全

友
呼

九

虎
住

市住

糸
正

養木丸

綾
機



あつてはく下女もさうや汲桶のうのかゝるむう入元日寄居道寄

霞

子りけり一服ねうすことさしけつてつむうの種ちうさう川崎鳳管

こゝ想ふまの事もあつてゐる矢立の枝やゆゑうさう上毛松田里住

いつのあつたまのさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕全桐生元住

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光峯近

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光鳳鳴

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光梅満

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光汐道

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光数雄

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光里雄

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光雀丸

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光守丸

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光真帛

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光賣安

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光春門

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光繁樹

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光志丸

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光空寐

さうもさういふさうもさういふさうのさうもさうかゝる戸牕日光珍馬

師まめとすく姉のちもふうふとていつとてむとておのち
おとこきえぬまのふ髷をかかると山もかゝるの独路中ふつ
ちうてちうちめの仕事とせしやよりはお前のすくひひとてん

守

正

海老丸

寫

橘のかさ柳のさのいあうまうう 羽仲のさうくさのうくひまを

姜左古

うめのふゆとむくくこの鬼あうひくく体あうまのうく

有

うすくひきてもとちふろふあけてねびたうもやまをふる梅は来てあく

金

~ ~ ~ ~ ~

系

ふとくはるきめとふのあやむ笠ひろくうしろみり

數

うひきふふふふふふふふ 桃柿、のきふふふふふふふふ

鹿

[illegible]

鹿

ひさの聲

森

天地よりある人のころをもうこうをもうこうひさめこう

珍

立えろの校めろのゆく等々へく旅うひさよ木のゑむけオ

名

ふめえもあはれな中へ声うききうひきめあ

守

こころをいへるに、谷のひろくおもしろ月夜は——とて

星

くひまゐるゝをぬきとよむ肝は蜂もとく、自我喝とるつ

舟

Handwritten text: *Handwritten text, likely a signature or name, written vertically.*

未

梅

一 暇めて
トえゝとらねえよあうて紅梅移るもうちふきの雪

万

春門 菅簍 梅龜 市住 綾機 麟馬 姜左 明安 采記 白記

繁 望 志 星 清 本 根 賣 刺 真
 樹 成 九 九 澄 任 九 安 堅 守

一三
樂村

桺

雪 正 守 月 系 待 綾
磐 世 數 照 正 綱 重

為 万 笑 珍 元 川 露 鈴 弘 稻
貞 守 九 馬 佳 近 玉 成 器 丸

折名
安好

安 好

糸 月 貞 松 杉 為 外
成 嬰 俊 古 丸 丸 成

守種長豐積綾川真霍瀧
茂彦雄方棧近砂九子

戀

華音細松千茶枝細鱖
々芳人古本友記丸

[illegible]

辰仲倉千行都鳳內駒捨
丸佳積村恒輩鳴成彦隼

ふつふつある春のよき日はついでに
千年と走らぬてもぬくことありける
うつらにたすけの春の山ひきの
うわのすゝめをひてひきくはよきひをこめ
毛のむちやうへ山人のさめり木のきり
の申のこめりる

寄居

霊歌かるゝ 白毛舎撰

十五英

ついでに
十三、
うわのすゝめをひてひきくはよきひをこめ
毛のむちやうへ山人のさめり木のきり
の申のこめりる

万	負	刺	夏	蟹	袖	雪	春	寐
守	俊	堅	躬	子	守	繁	告	覺

雲雀

めい
うわのすゝめをひてひきくはよきひをこめ
毛のむちやうへ山人のさめり木のきり
の申のこめりる

千	糸	川	一	房	繁	真	木	秋
本	成	近	馬	丸	樹	梶	樵	住

守真內腹靜真賜千代成秀
九歌成滿九金彦彦丈雄

文多久彈香數行歌米盞
庫丸喜良摘雄竹盛守成

繁 余 守 狂 王 素 華 采 輕 細
 樹 光 茂 歌 成 佛 々 人 記

繁 糸 守 狂 王 素 華 糸 輕 細
樹 光 茂 菴 成 佛 々 人 記

けくはも葉の候くさみさし花ハニおさうやめえくらさく
 とのえこえふさうなまめめのおる酒のいさこのうけこさうな
 うけやりするもめさうちおめえれさうやうまあうさ
 さささささささうううささのかるなうめハさうう花
 へささささささささされ上戸さう下戸はめれし朝の目め
 あさうやまめれさの酒やかさうけはさうかたさうあさめさ
 うささささささされさうさささささささめさそのさう酒君を
 されささささささささささのさささう風さささハさめささ
 かけりのさうて風さささうけさささう床さささそのれをいけハ
 さうあささそのさうさうれれ酒のさうめのかさう酒のさ

月 雅樂 筆 野 松 峯 山 今 菅
照 雄 持 留 菴 世 高 々 簾

夏葉潼唐葉和和酒正
經守子九守則留見世

日光

一斗 幸丸

内 都
成 輩

むろりそくなくかろうあ耳あしのほのころろはせとうさう
ころろころろみずれまけし屋のこころかくりまてふのめりち

香久美 角 弓 桂 満 綾 一 吳 房 市
 住 雄 守 重 村 竹 九 住

春秋 御 元 増 玉 照 唐 永 京 麟
 秋 春 成 々 倉 住 九 人 吉 馬

名 好
 王 金
 國 佐
 道 佐
 露 玉
 貫 九
 魚 閨
 日先
 教々々
 吉 躬
 恭 雅
 九

栢 長
 寐 待
 内 成
 清 澄
 稿 人
 角 佐
 桂 枝
 枝 友
 全 古
 全

藤五

暮春

水戸

麟 未 鶴 捨 万 真 金 笠 槌 跡
馬 佛 成 更 守 砂 元 成 丸 成



雨 水
茶 雅 九

通書

米 守
春 時
真 芳
靜 枝
永 雄
真 芳
岩 女

上主

九 雄
九 雄
文 字 九
一 馬
真 芳
鳳 鳴
唐 琴
里 任
繁 躬
音 成

日光 仙舟 松井



筆持
 音高
 雪益
 光音
 長普佐
 峯近
 成丈
 全
 清喜

祈憲

道寄
 龜丸
 御代成
 英成
 升成
 廉九
 友垣
 千條
 愚鈍
 松成

繁 全 道
躬 佳

Th
T

藏
積

東名

文字九

字都宮

真
席

古河

肉成

古河

難哥免

樂名

伎與良

素名

文学九

負

隱
栖

麟馬

待綱

不

乘名

歌
方

產宮

福

友呼

內成

1

棗名

四

2

2

仙

仙

3

3

文雅園

1

1

1

1

15

15

152

152

廿

廿

五

五

主

主

三

三

七

七

品

品



F

F



柳川仙府 唐 九
 松原市 春 秋
 名日 花 元
 糸日 全
 人 春 道
 日 千 本
 日 秋 佐
 日 春 道
 日 五 百 丈
 日 正 高

山 人
 深 住
 鳳 管
 差 益
 和 四 曹
 光 音
 弓 雄
 繁 人
 厚 九
 道 直

寄るる水もとほけりなつたけのしるつとてさうとて

真 希

五月雨

降つてはるる水もたれとてさうとてさうとて

真 守

五月の天の庭もくやうく人月のやうな代わり

鳳 管

抄のやうなうもむのうもさうとてこれとてこれとて

珍 馬

ひさしとてあめり軒はわうとてさうとてさうとて

織 芳

くくくくさうとてさうとてさうとてさうとて

百 成

さうとてさうとてさうとてさうとて

千代彦

さうとてさうとてさうとてさうとて

竹 丸

さうとてさうとてさうとてさうとて

数 雄

さうとてさうとてさうとてさうとて

私 器

さうとてさうとてさうとてさうとて

倉 持

さうとてさうとてさうとてさうとて

茶 店

さうとてさうとてさうとてさうとて

葉 守

さうとてさうとてさうとてさうとて

九 澄

さうとてさうとてさうとてさうとて

角 住

水鶏

さうとてさうとてさうとてさうとて

一 馬

さうとてさうとてさうとてさうとて

本 住

さうとてさうとてさうとてさうとて

森 久

為
負

石
排

峯
頭

山々

文字九

行
恒

竹
丸

鈴
成

輦

松成

里 森
佳 久

ア、イ、ウ、エ、オ
カ、キ、ク、ケ、コ

茶店

梅

成
丈

峯
高

香
摘

子代

一
馬

成
夫

なめそそ
あつたほろろのまよひをえちてくころぬ味うころね

千代彦

うぐくたのちりをれつとそとち海の枕もあふふゆ二あふの山 原市

春
秋

わいゝゝゝゝちゝゝゝをむすひゝゝ
類々ぬきゝゝゝ根三井

御代住

かゝるしとつて店のお務まりも殊うさうのそとさするはねる

有恒

はるごとく
はるごとく月より紅る事のこの冬はるごとく事とれるん

吉
躬

遠目より麻とてとてても二回風をわくくる玉の種の戻さよ

幸丸

うゝあるはあゝ雲は女房のききつをすちううあるゆゑ

菅
簾

海の底に花を散らす。花は水の中を泳ぎ、空へ舞い上がる。

春
根

はるまじとてうろろ花を押しうろろ花の種日

永雄

1890

光
音

和えつておちくちをてと、
 和の夕日よろろふ、
 和の夜ふ

姜左古

ねえとて今仲良あふまふとにほろぬるさる村を

麟馬

[illegible]

藏
續

人々をくまなくあつとせしむる方なりとあらんをこれの要と

真芳

眞名公つらぬむうい何とうい都のきふううい重名

真帝

夕風うらやましくもなまじき夢もすそほそあめくまぬ

琴雅

文字九
 敷雄
 子

電

星九
 春道
 鈴成
 倉持
 百成
 廣樹

鵜河

麟馬
 峯近
 鈴成
 大海
 玉倉
 貫丸
 長房
 松世
 角住

柏長 九雄 笑丸 氷解 真芳 本住 魚蘭 時保 茶雅 千國

奧子 澣 松 枝
子 成 友

原市
 松井田
 原市
 松井田

龜 柿 春 茶 仝 仲
帛 九 秋 店 住

外盛
 英彦
 千代彦
 駒彦
 竹村
 弓雄
 松世
 琴雅
 未佛
 音高

順風
 氷解
 清喜
 玉成
 真砂
 ？丸

蚊遣火

差益
 松守
 千村

名古屋

香久美

諸川

靜
枝

諸川

長房

7

星九

22

峯高

水戸

一
馬

水戸

珍馬

1

直
幹

廉詔

谷
佐

廉詔

安良

素名

永雄

10

麟馬

光
音

字陽

春
香

蓮

原市

春秋

松井田

茶店

名古屋

香久養

10

堊
成

貫丸



水島のお娘のこともさういふほどはまの娘のこともその家
 茶屋よりすこしあつたといふことゝもまたのまゝもある也
 いふまでもなく父やめてくんのちつとをいふほどいふまでもなく
 ちつとあつたといふことゝれてちつとをいふほどいふまでもなく
 ちつとあつたといふことゝれてちつとをいふほどいふまでもなく

夕立

夕立といふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也

長房 村立 九雄 柿丸 梅竜 生旭 千村 玉倉 貫丸

風といふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也

蟬

石のけもあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也
 あつた事さういふのはあつた事さういふことゝもまたのまゝもある也

長良 道寄 満守 真希 万守 菅簾 春秋 連南 茶店



夏琴雅千恒琴千春葉
躬彥雄春好彥村繁守

納涼

赤正八千茶樵鳳守里綾
佛世咲本店詠管丸佳鳥

大	笙	千代	長	恒	音	文	春	全	房
海	成	彦	房	好	高	字	時		九

行 眞 倉 御 光 為 山 麟 光
竹 守 積 任 音 貞 々 馬 音

待憲

[illegible]

蠶坐
盤上
歌林瑩撰

十五、

我ちよくぬおもてうゝとれ々り囲棋のまぢうのあれにてハ
十二、
うゝちをえ教ふちりて双ふは勝めとてハ一廉の角とい
すげこのお棋もうちとあり今や止めとてうゝつて虎車取手ハ

立秋

つゝのふるは歩郎とて来て 川平橋の ぬまのうさこより 杖はさうらん
うけあさう 桐のぬも 柳まふの 西うこもぬとく 秋の 初風
秋のまゝ ちうへいは 桐とて 来る 自れはおとく 春の 初風
うさう 秋の まさう あはは 落りう 軒の 風 終る 庭の 桐の まゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝ 桐とて おちく せせせせの 初風
すゝゝゝゝゝゝゝゝ

原市
松枝

市春里花峯 万仞米
九門住元迹 守守

人もあはれむ候はまの戸一つあつまるゝあたの初風 多五
 うけく柳あつたのふゆな秋ふりそものうせふま 日光
 うそあたも格段のものをたふや風はうらう決まろう
 かさくそ秋はまうしそ格段ふりあうの秋の初風
 春はまうしそぬうちも風まのさうと相は秋の初風 原市
 あまう戸の相の一番の音つねあはれなる秋のうら風 在京
 うちさきもさきこのやうは格段うら秋立風は相一ま 宇治
 格の香ねるあまうちまは秋の立う枕の相よく風 全
 久この天はまうし秋ふゆとまうしあて秋はま 全
 春はまうし相のまをたう初く調まのうら秋の初風

葉	魚	全	梅	春	龜	重	芳賀	春	笠
守	闇		負	秋	丸	根	根	門	成

うけあはれぬは枕うらまえて人おとろふあこの初風
 川河のねうらまえてうら秋はまうしうらうちりん
 ひはれ秋はまうしおとろふうらまえてうら秋の初風 川寺
 秋ふゆとまうし格段の秋はまうしそもの秋のうら 相生
 うそあたの秋風はまうしそ先ねるうらのかう初風
 うそあたの月もあつたのゆふうらまえて秋のま 宇治
 秋はまうしうらまえて格段のまうしそ初風 全
 うそあたのまのゆふのうらまえて格段のま 全
 秋はまうしあつたのまうしそ初風 全
 床のまのうらまえて格段のま 相生

全	米	紫蘭	文	繁	真	春	全	赤	一
守	人	守	樹	砂	香	手	村		

こころうと草のこころうとあひまゝに重なる秋のさう風
 々々ううとあゝのさうも元ううと秋のううとのまゝに淋しうと
 々々秋のまゝ屋中のねええまゝのさうとかうと初風
 うれとあゝええねとまのうしろもこころとくわゝの秋風
 ちひかりかゝつてのりさうせよこゝろたのる秋のさう風

宇和 歌府

七夕

よか〜小
神のたよく紋
をわうあはこ
るあまを繼

よとぞの 社をちちふ あつぬめのちちふ 土かゝる枕 几帳り 下段

下經

われはあふれぬうまのつゆはくちを牛とて走らる
掛象

掛塚

天の川をくぐりて三子の妻の奴の腹をさるる人

掛塚

光

有

并

千代

元

愚

長

穗

麟

硯ふきうろこ干つれたるやの天の川るあまをうやうやう

三

天の川いせのほとりやつらん今よれ名をあふ星合の候

士

せうこのころは
 接子をうきうき
 星へ向の如く
 入私うきうき
 知系

郷原

革

ある星のうねるやえさくのその神よりぬき夕つ石裂

石裂

立

阿ふふふふふふふふ松浦屋わつねや石とあるふふふ
宮井

宮奇

千

桐櫛のうね色くもてかせや妹わねを志りどめ社の衣新書

補註

茶

まゝこのむねの歌のすうふと合せあは牛のう入

全

茶

あまのこおくきふのむけふの早の膝へう

五

二六八 中あやとあつてきうめのうおむるむるむるのき

百

あふよふの早の 枕よりあふる 塵をさへて 天の川にせ

茶

かゝるいふことあるはちなりやうやう初々かきゑの場

道直

獲う者も死ありて天の川をぬくむべきことのぞ

大坂
丸
雄

むづかしき星のちるう
いけやうとつそふてゝ
お

宇
真
盛

わねいとも厚のあふあふのふはるる舌とりふきまこころせと

仙府
唐
輪

星あなと言はるゝとてゆゑなりぬる毎のちを

素名
梅
雄

うゑなめ
社ありふりなりあぢちんていぞのう

香久美

はるのあめ及よのほろそめせう
強をもてふ人

福崑
倉
持

[illegible]

滿
字

中へあつたところを、さうして、

水府
長
良

作
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

桐生

草花

一服めいそく
莖つゝ 聖とあつゝ ころのちりて 秋の跡よどとねてえん 松井四

茶店

累格といふある事とてハ、
カヨクアキの事

跡成

柳あつた秋とては言ておととに
 いかけのふれども似たる
 村歌 素者

春
恨

あまのねのきのかくもむろさきのきとくへ
うろあにきかのをむ

千
卯
年

ふとてうとうふやせん
はまうてぬれ
ゑるゑるあかき
あ

豐島山人

山崎の秋のやうな
おふふふふふふふ
ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ

下

二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

夏
方

[illegible]

子

郷原

二

彥根

守

信美

安

奥郡山

お ぬ と

水

珍馬

全

方有

飯沼

村立

10

恒好

光
音

福島

倉持

掛塚

廉丸

李

詠
美

筆
丸

金

村道

分雄

市丸

光

系佛

冊
滿

卷下

迫廣

市

通

唐麟外本万茂長元
琴馬成住守俊良舍

乙未の秋つるるふ席のうこおひれ
 何れれ地つれをうとくあく 郷原

夏 籥 可 保 鳳 鳴 梅 賁 春 道 跡 成 千 桺 亭 滿 守 槌 丸

竹 沙 星
丸 道 丸

成
夫

鳳鳴
可保
留

繫人

遠村

全

文字九

歌
盛

清喜

志
丸

蒯安

赤下爭

倉
積

春
秋

谷
佐

つれるほの御茶の梅はあゝ何れもあゝぬくひのあぢ 仙居 唐 輪
あれてのち片腹のふせつたぬんあゝのふせつたむくもし 一 馬

神祇

あててつる人のあゝ何れもあゝてつるあゝてつるあゝ 仙居 千 村
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 千 柳 亭
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 行 恒

貝

あててつる人のあゝ何れもあゝてつるあゝてつるあゝ 仙居 紫 蘭 人
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 房 丸
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 星 丸

春あゝて秋あゝての神あゝての神あゝての神あゝての神あゝ 仙居 道 州
あゝてつる人のあゝ何れもあゝてつるあゝてつるあゝ 仙居 松 成
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 繁 樹
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 和 田 雷
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 笠 成
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 千 柳 亭
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 春 蟻
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 麟 馬
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 仙居 志 九
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 仙居 百 雄

何

信松本

かくそつううこうさる世へあゝ曳のやちとてかへつゝなれうめ
やうやう
こころあくまへゝるあまのつゝめてよとやすふとすめり民子

千 峯
垣 迤

くわうしろう あさやかと不二のつるゝんごうていぐふのちひなめてふ宇陽

重 峯
根 迤

えぞのあけり 代はもろゝゝ 銚子 刀 ありの 糸の ころし 白玉 園ハ

文字九

人ころろろろろむいりさうねと武備伊をあらうちくのぬ
まうせもゝたそこうけいねあててぞあつたのふらふおや

千 升
春 成

君う代のやうさうこめく 何ふもあめさうあ 京の玉

峯
近

業を更くばる皇國ハ
 うる水の如くあり

蟹子丸

畫

宝市亭撰

十
五

とろちゅうふるぬしのよるうらな筆をすすみの長さくらり

米
守

昭々たることありける中、ふゆのゆくし、まほゆあつた

升
成

きくさの何ふうええと恵工の益あつたやうな一斗

千村

蘇杭優う及ぶのみと云て筆よりゆるむるは

升
成

月

てゐるのを手探とてゐるのを指をぬくよきうに

夏
船

たえつちきくハ気の付て歟ふおよどのふ事をうら

成
丈

夫々々々の極みなる程を尋ねの極みなるを尋ね

雅
雄

いそぎとをうめり有ふ政家の者のふへつゝをた——日に

無
聞

るにほる月の都をさるる夢を何千金なるものなりと云

素
佛

春

午

士心

道

雷

英

跡

正

南

唐

千

續

倉

薩

珍

यय

友

長

外

全

春

午

士心

道

雷

英

跡

正

南

唐

つれづれにふりかへりてはまたすこふふとぞすすのそは 相生 在戸村 道

ふまふおふあふふりてつゆのくあふふふふふふふふふふ 車泊 歌 武

霧

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 吉 熊

あふふのあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 星 丸

柳のふふの柳ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 雅 雄

あふふのふふのふふふふふふふふふふふふふふふふふ 三千 草

あふふのふふのふふふふふふふふふふふふふふふふふ 正 世

あふふのふふのふふふふふふふふふふふふふふふふふ 弘 器

あふふのふふのふふふふふふふふふふふふふふふふふ 銀 樹

船のふふの船のふふの船のふふの船のふふの船のふふの船 千 村

あふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふ 文 篠

あふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふ 朝 風

あふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふ 真 雀

博衣

あふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふ 光 音

あふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふ 峯 近

あふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふ 仲 住

あふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふ 茶 店

あふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふふのふ 茶 積

和 飯 守 積 調 文 升
田 持 茂 方 雄 字 盛
留

鵠

田之甫の化チーううん松のうちは方ううううの掃をううう

幸丸

菊

[illegible]

名 真 千 枝 森 月 春 長
砂 子 村 友 久 癸 時 房
種

紅葉

立田川ありのふとふあううれはのをわうてううわ
 山出

長房

連千千系全聞秋五米雪
南春國正馴住決守益

千歌市叁
本丸九之

あれさうやうれゆく秋はすのうへて是の儘となる。松さうれ
りたりとや秋のちうをふちもはそま松のこ樹さうり想となる
まうらうさうれや。秋をめんやひうり。三とわむ松の夕楓
行秋さうやのちうやふおとらうて。伸よりてはすねく。穂首

谷 家 辭 千
住 守 技 春

顯憲

いふはてはふらふの梅香をてれて村をさうめる
さやわゆる梅のふたのわさうていあつれてあやうもさるれ
わさやういふもさるあまのて人のうへさるる
かへういふも人のさるるあまのさるる
いふのいふはあまのうさるる
梅のふたのわさうていあつれてあやうもさるれ
さるるいふもさるあまのて人のうへさるる
かへういふも人のさるるあまのさるる
いふのいふはあまのうさるる

梅香

雅 雄
福 良
茶 丸
真 輝
實
光 音
遠 付
音 共

いふはてはふらふの梅香をてれて村をさうめる
さやわゆる梅のふたのわさうていあつれてあやうもさるれ
わさやういふもさるあまのて人のうへさるる
かへういふも人のさるるあまのさるる
いふのいふはあまのうさるる
梅のふたのわさうていあつれてあやうもさるれ
さるるいふもさるあまのて人のうへさるる
かへういふも人のさるるあまのさるる
いふのいふはあまのうさるる

池

獸

麟 馬
吉 躬
梅 満
和 田 雷
吉 躬
長 喜
村 立
荊 安

九雄
 朱守
 全

初冬

長房
 米守
 直幹
 千春
 秀真
 名好

春香
 和田雷
 友雪

時雨

織芳
 珍馬
 市丸
 米守
 行恒
 龜丸

立田山にのりてふ片時雨くくつふ日ちるや日のさと
 ろくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 小ねるくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 定るくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 一くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 夕日せくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 金平の用意くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

龜 直 跡 家 春 糸 荊 綾 文 花
 丸 幹 成 守 時 正 安 機 守 元

落葉

相くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 小春月西行くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 山麓くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 烟くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 けくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

千 糸 東 行 末 茶 峯 直 千
 村 正 丸 竹 高 店 近 幹 春

木うらうらうしおきりぬきぬき向ひぬきぬきなぬきぬき
 谷 住
 夏 郎
 今 郎
 真 似 好
 名 子
 無 闇
 守 住
 峯 近
 見 元

霜

いふたてて胡条のうらうらうらうらうのふくふくふくふく
 花 元
 鳳 管
 山 々
 茶 店
 琴 女
 外 成
 釣 人
 滝 子
 綾 機
 氷

氷

すゝきん上へ中へあふれにさつものよのこゝろ
きんのかきさるるれはかきさるるもさるるあつたつ
はるのさるをえれにほほほあつたつあつたのせめく
張つめし上へさるるあつたつあつたのせめく

綾 織
雄 名 躬
名 母
升 盛

千鳥

きんかきさるるの南のやあさるるあつたつあつたつ
さるるあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
南のさるるあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ

橘 五 園
奇 盛
秋 佐
粟 廣
守 住

寒草

かんそう
人何も枯草の産みおろしに枯草の産みおろしに
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ

無 闇
三千草
琴 女
升 成

志意

しゐ
何のにのちをさるるあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ

魚 丸
米 守

恨意

かみ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつあつたつあつたつ

哥 住

乳のつづき... 萬の音の... 味... ち... 里

永 解
万 守
綾 裁
繁 人

... 千... 吉... 和... 田... 雷

千 村
吉 躬
和 田
田 雷

釈教

... 長...

長 房

... 千... 南... 陀... 羅... 數... 芳... 賀... 根

夏 躬
千 垣
南 陀
陀 羅
數 雄
芳 賀
賀 根

旅

... 鳳... 千... 村... 長... 房

鳳 鳴
千 村
全 房
長 房

修行者よはふくしうそきもの種をまきくうはのうへん仙舟
ふりきり種もこまふり二三ふさうそきとれる族のこも
白はしら種をひくのふたりく由他目の縁のはけ一井のめと
族にたの低もひなるとありをううううううううううう
おくうるふのやうな族をふとをたりようをうううう
五五ふううううううの族ふふはけはを足おすうう

宝

ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう

諸礼 花咲菴撰

唐	直	糸	米	菅	升	玉	千
丸	幹	正	守	簀	盛	雄	條

十五、
ううううううううううううううううううううううう
十三、
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう

冬月

ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう

房	汐	道	米	道	米	道	房
弘	道	文	守	道	文	守	弘

歌丸 浅人 豊 葉 珍 茶 房 山 直 村
素岩 水戸 日 日 日 日 日 日 日 日
 上春屋

今 江戸 名 春 全 真 素 山 家
 住 母 門 雀 佛 々 守
 雁馬狩

順風

茶店

守
任

篁成

今

光
音

松成

唐
九

茶人

筆丸

長
喜

雅樂雄

家守

百成

剿丸

鳳
管

唐
九



三

松井四
仲 住
竹 村
綾 檼
麟 馬
千 春
詠 兼
星 九
守 住
綾 瀬
聖 祖

老意

鳳 鳴
和 田 留
志 九
行 恒
實 水宿
鈔 九
繁 躬

如意

有 恒
三千草

守 住
 常 恒
 筆 九
 文 森
 長 房
 若 彦
 村 道
 翠 弘
 房 弘

市

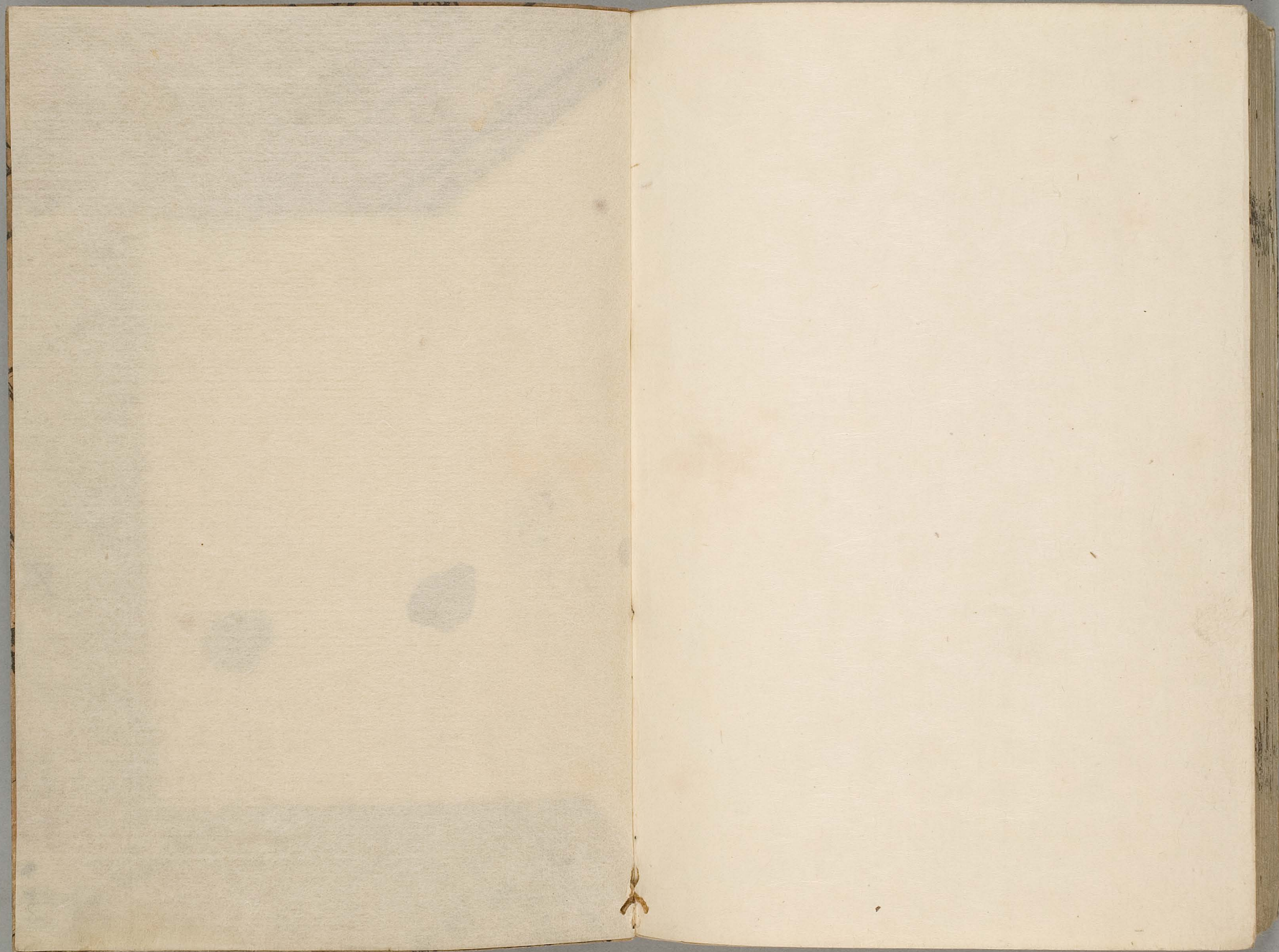
村 立
 笠 成
 光 音
 雪 益
 梅 竜
 香 久美
 綾 瀬
 常 恒
 全

祝

捨 繁 汐 筆 劬 戛 糸 麟
魚 躬 道 丸 丸 躬 道 馬



MAVUL



三寶齋
藏書

卷之二

大寶齋目一第

三寶齋

寶齋

永樂齋